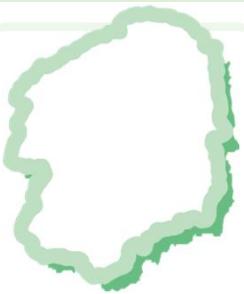


栃木県農政の基本方針と重点戦略

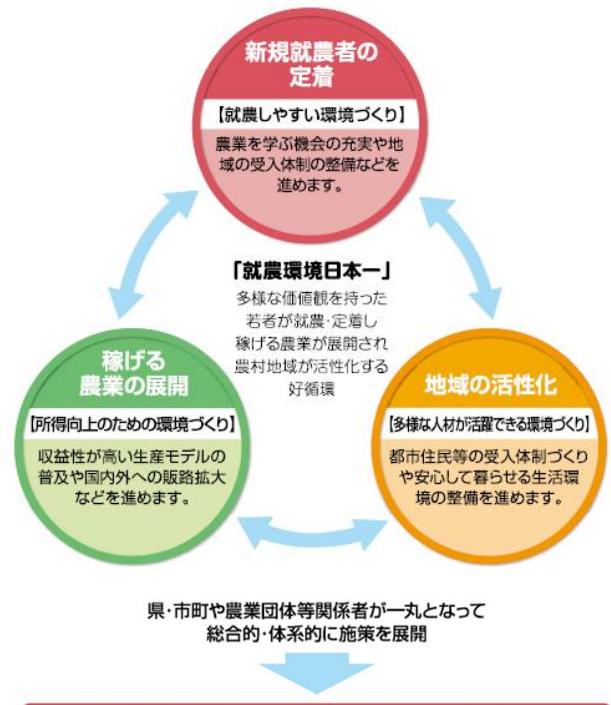


【基本目標】

多様な価値観を持った若者が就農・定着し、稼げる農業が展開され、農村地域が活性化する好循環を生み出し、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」の実現を目指します。

数値目標		(参考)直近値
◆農業の販売力: (販売農家1戸あたりの農業産出額)	【1,000万円】 (2024年)	【793万円】 (2018年)
◆地域農業を支える力: (青年新規就農者数)	【1,600人】 (2021-2025年)	【1,264人】 (2016-2020年)
◆地域の持続力: (担い手への農地集積率)	【80%】 (2025年)	【52.7%】 (2019年)

(出典)販売農家戸数・農業産出額:農林水産省調べ
青年新規就農者数・農地集積率:栃木県農政部調べ



【重点戦略】

基本目標の実現に向け、重点的に取り組む3つの戦略を推進しています。

戦略1: 明日へつなぐ

意欲的な若者をはじめとする多様な人材が活躍し、本県農業を力強く支え、明日へつながる農業を展開します。

①地域農業を持続的に支える仕組みづくり

高齢化などにより農家が減少する中、地域農業を持続的に支えていくため、担い手への一層の農地集積・集約や、広域的に営農を展開する法人などの新たな担い手の育成を図るとともに、多様な人材など地域の力を結集した農業の仕組みづくりを進めます。



法人組織設立に向けた営農部会での話し合い



雇用就農希望者向けの法人ツアー

②意欲ある人材の参入促進

産地が主体となった新規参入者を受け入れる新たな体制づくりを進めるとともに、農業を学ぶ機会の充実を図り、栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めます。



就農相談会(トチノフェア)の開催



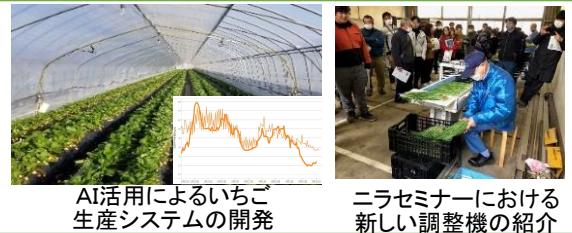
ベテラン農家「とちぎ農業マイスター」による就農希望者への研修

戦略2:強みを伸ばす

大消費地に近く、広大な水田と高い生産技術などを有する本県の強みを最大限に生かし、成長産業としての農業の更なる発展を図ります。

①新たな施設園芸の展開

AI等を活用した新たないちご生産技術の開発や、いちご、にらの高収益モデルの確立等により、施設園芸の収量や品質の飛躍的な向上を図ります。



AI活用によるいちご生産システムの開発

ニラセミナーにおける新しい調整機の紹介

②稼げる水田農業の実現

水田を活用した競争力の高い大規模園芸産地の育成を進めるとともに、先端技術の導入や団地化を進め、省力的で効率的な稻・麦・大豆の生産体制を確立します。



キャベツの機械収穫

水管理システムを導入した基盤整備

③栃木の畜産力強化に向けた展開

本県畜産の産出額拡大を目指し、担い手の確保と経営形態の多様化を図るとともに、AI・IoTの活用や家畜伝染病対策等の推進による生産性・ブランド力の向上に取り組み、経営力及び生産・販売力を高めていきます。



餌寄せロボット

耕種農家と畜産農家の連携による飼料生産

④“選ばれる栃木の農産物”の実現

「いちご王国・栃木」を最大限に生かしてブランド発信力を強化するとともに、オリジナル品種のブランド価値の深化を図り、国内外で「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。



関西圏でのいちご王国マルシェの様子

台湾での県産農産物PRの様子

⑤次代を見据えた研究開発の推進

本県農業の顔となるオリジナル品種や生産性の高い新技術の開発を進めるとともに、気候変動や温室効果ガス排出削減など環境の変化や時代のニーズに適応した農業技術の開発・普及により、本県農業のイノベーションを促進します。



高温耐性品種開発に向けた手まり咲きの県オリジナル品種試験の様子

戦略3:呼び込み・拓く

新しい人の流れの創出による農村地域の活性化と安全・安心で住みよい農村づくりを進めます。

①新しい人の流れの創出による農村地域の活性化

農村資源を活用した都市住民等の交流人口の拡大、将来的な移住・定住につながる農村における関係人口の創出・拡大に向けた取組を推進するとともに、農村地域の将来を担う多様な人材の定着を促進し、新しい人の流れの創出による農村地域の活性化を図ります。



農村プロデューサーによる伴走支援

農家民宿での調理体験(FAMツアーア)

②安全・安心なとちぎの農村づくり

農地や農業水利施設などの農業生産基盤の整備や管理により、良好な営農条件を備えた優良農地を確保するとともに、農村地域の防災・減災力の強化と安全性に配慮した次世代型の農村環境の整備に取り組むなど、安全・安心で住みよい農村づくりを進めます。



ほ場整備後の畑地帯

田んぼダム排水マス設置中の様子